

経済レポート

グラフで見る東海経済(2017年12月)

調査部 塚田裕昭 杉本宗之

【今月の景気判断】

東海経済は回復基調で推移している。生産は増加が一服しているが、輸出は持ち直している。雇用は持ち直しの動きが一服しているが、賃金は緩やかに持ち直している。個人消費は総じて横ばい圏での推移となっている。設備投資は増加が一服している。住宅着工は横ばい圏で推移している。公共投資は横ばいとなっている。

先行きについては回復基調が続くと見込まれる。生産は輸送機械が持ち直す中、全体として緩やかな増加が続くと見込まれる。輸出は、世界経済が緩やかに持ち直す中、持ち直しが続くと見込まれる。消費は、所得環境が緩やかに持ち直す中、底堅さを維持するだろう。設備投資は再び増加基調となり、公共投資は均してみると横ばい圏での推移が見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗	☁	↗	輸出	↗	☁	↗
個人消費	→	☁	→	輸入	→	☁	→
住宅投資	→	☁	→	生産	→	☁☀	↗
設備投資	→	☁	↗	雇用	→	☁	→
公共投資	→	☁	→	賃金	→	☁	→

(注)1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

(注)2. シャド部分、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～トランプ政権の混乱と政策の行方、米景気への影響、北朝鮮など地政学リスクの動向、米国の金融政策の動向、中国経済の回復と不良債権など構造問題
- ・企業活動～電子部品デバイスの生産・在庫動向、自動車関連の生産、工作機械受注動向、企業収益と設備投資の動向、人手不足の企業経営への影響
- ・政策～金融政策の今後の展開
- ・家計～賃金の改善状況と物価動向の家計消費への影響、好調な株式市場の持続性

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る東海経済」の見方】参照

【各項目のヘッドライン】

項目	11月のコメント	12月のコメント	ページ
1. 景気全般	回復している	回復基調	4~5
2. 生産	増加基調が続いている	増加が一服	6~8
3. 雇用	持ち直しの動きが一服	持ち直しの動きが一服	8~9
4. 賃金	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	10~11
5. 個人消費	持ち直しの動きが見られる	横ばい圏で推移している	11~13
6. 住宅投資	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	14
7. 設備投資	大企業に弱さが見られるものの、緩やかに増加	増加が一服	15~17
8. 公共投資	横ばい	横ばい	18
9. 輸出入	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい	輸出は持ち直し、輸入は持ち直しの動き	19~20
10. 物価	緩やかに上昇	緩やかに上昇	20
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	21
12. 倒産	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数、負債総額ともに増加	21

(注) シャドウ部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*) 参考資料: 「グラフで見る景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】

1. 景気全般

生産が2ヶ月連続で小幅減少し、個人消費も横ばいとなってきた。また、MURC東海景気動向指数も4ヶ月ぶりに低下した。

2. 生産

10月の東海3県の鉱工業生産は前月比 - 0.5%と2ヶ月連続で小幅減少した。

5. 個人消費

内閣府「地域別消費総合指数」によると、7-9月期の東海の個人消費は概ね横ばい圏で推移している。

7. 設備投資

内閣府「地域別消費総合指数」によると、東海の設備投資は17年半ば以降、増加が一服している。

8. 輸出入

11月の実質輸出(季調済)は前月比 + 4.8%と3ヶ月ぶりに増加、2008年7月以来の水準に戻している。実質輸入は前月比 + 10.5%と3ヶ月ぶりに増加した。

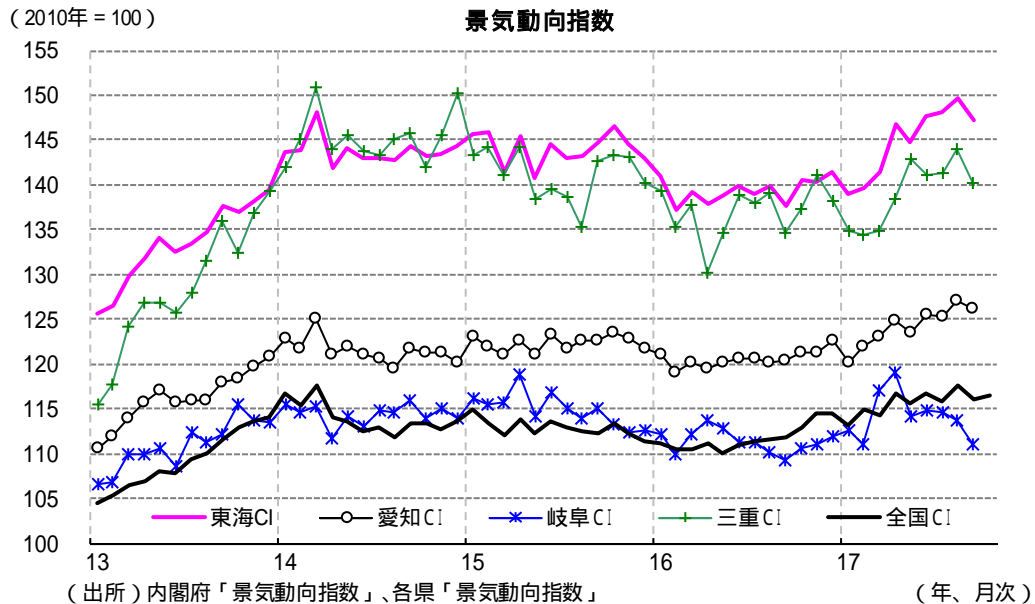
【主要経済指標の推移】

経済指標		16 10-12	17 1-3	17 4-6	17 7-9	17 10-12	17 6	17 7	17 8	17 9	17 10	17 11
景気全般	東海景気動向指数(ＣＩ、一致指数)	140.8	140.0	146.4	148.3		147.7	148.1	149.6	147.3		
	景気動向指数 愛知(ＣＩ、一致指数)	121.8	121.8	124.6	126.2		125.6	125.3	127.2	126.2		
	岐阜(ＣＩ、一致指数)	111.3	113.6	116.1	113.2		114.8	114.7	113.7	111.2		
	三重(ＣＩ、一致指数)	139.0	134.7	140.7	141.8		141.0	141.4	143.9	140.2		
	景気ウォッチャー調査(現状判断DI、季節調整値)	49.1	49.6	50.7	50.9		52.7	51.4	49.9	51.3	52.3	56.3
	(先行判断DI、季節調整値)	51.1	49.4	49.1	50.8		49.7	50.0	50.6	51.7	57.1	55.1
短観業況判断DI(製造業)	4	6	9	16	15	10	<3月予想>					
(非製造業)	12	11	13	13	17	10	<3月予想>					
法人企業統計経常利益 製造業(兆円)	0.9	0.7	1.1	0.9								
非製造業(兆円)	0.3	0.2	0.4	0.4								
生産	鉱工業生産(季節調整済、前期比・前月比)	0.9	-1.2	3.9	3.4		0.9	4.2	2.2	-1.3	-0.5	
	鉱工業出荷(季節調整済、前期比・前月比)	1.7	-1.5	3.5	3.1		2.9	2.8	2.6	-2.0	-0.9	
	鉱工業在庫(季節調整済、前期比・前月比)	-4.8	-5.9	-3.4	-0.5		2.3	-2.4	2.2	-1.7	1.2	
	鉱工業生産 輸送機械(")	0.7	-3.8	5.1	1.8		10.3	0.1	3.6	-1.3	1.0	
	はん用・生産用・業務用機械(")	3.9	0.4	4.9	6.2		5.4	2.4	-0.8	4.2	-5.9	
	電子部品・デバイス工業(")	1.1	4.4	4.9	6.1		-14.7	19.8	-2.7	-3.9	1.1	
	プラスチック製品工業(")	-2.0	-3.1	4.2	1.1		1.5	2.6	0.8	-0.2	0.4	
	化学(")	1.7	-0.7	-1.9	2.6		-6.3	6.3	4.7	-7.8	2.5	
	電気機械(")	3.3	-0.1	3.7	5.1		13.8	-2.0	-0.7	3.2	-5.6	
	鉄 鋼(")	2.3	3.7	-0.7	-0.2		0.6	-1.6	3.8	0.5	-0.8	
金属工作機械受注 総受注(億円)	350.1	343.1	421.7	418.9		451.1	407.7	406.9	442.1	433.0		
国内受注(億円)	126.2	121.0	151.5	156.1		152.0	139.2	158.1	171.1	163.5		
海外受注(億円)	223.9	222.1	270.2	262.8		299.1	268.6	248.9	271.0	269.6		
雇用	完全失業率(原数値、%)	2.5	2.3	2.5	2.4							
	就業者数(原数値、万人)	782	796	784	784							
	常用雇用指数 愛知	101.1	100.0	100.3	100.8		101.7	101.7	101.3	101.7		
	岐阜	102.0	101.7	101.8	101.8		101.9	101.9	102.0	102.1		
	三重	100.1	99.4	99.8	100.2		101.1	101.2	101.0	101.2		
	有効求人倍率 愛知(季節調整済、倍)	1.7	1.7	1.8	1.8		1.86	1.84	1.82	1.85	1.86	
岐阜(季節調整済、倍)	1.7	1.7	1.8	1.8		1.78	1.80	1.83	1.83	1.79		
三重(季節調整済、倍)	1.5	1.5	1.6	1.6		1.68	1.65	1.62	1.64	1.68		
新規求人倍率 愛知(季節調整済、倍)	2.7	2.7	2.9	2.8		2.90	2.70	2.62	2.95	2.94		
岐阜(季節調整済、倍)	2.4	2.5	2.5	2.6		2.50	2.70	2.54	2.48	2.58		
三重(季節調整済、倍)	2.1	2.1	2.3	2.3		2.37	2.24	2.16	2.45	2.51		
賃金	現金給与総額	0.7	0.2	0.8	0.8		0.9	0.9	0.3	1.1		
	所定内給与	0.8	0.9	1.5	0.9		1.7	0.9	0.2	1.6		
	所定外給与	-3.5	-2.3	-1.2	-1.1		-1.0	-2.2	-1.2	0.1		
勤労者世帯(含む農家)の名目収入 勤め先収入	1.4	6.7	-5.3	0.4		-10.8	5.0	-3.1	-2.6	-0.1		
定期収入	0.3	4.7	-3.0	-1.4		-2.7	-0.7	-2.6	-0.9	3.1		
個人消費	勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出	2.0	-9.1	-2.0	-2.3		4.7	-3.5	-0.4	-2.8	-8.5	
	百貨店販売額(名古屋市内)	-4.5	0.0	-4.1	-0.1		0.6	-4.8	-0.9	7.1	-3.1	6.1
	百貨店+スーパー販売額	1.2	-1.5	0.3	-0.2		-1.0	-2.4	-0.9	0.7	-2.2	
	コンビニエンスストア販売額	4.5	2.3	2.9	2.0		2.6	2.9	1.9	1.1	-1.2	
	新車登録台数(含む軽)	7.3	6.7	12.2	0.0		15.3	-0.9	1.0	0.1	-3.4	1.4
	家電大型専門店販売額	0.3	1.8	3.9	6.9		-1.8	9.4	7.2	3.1	-1.3	
	消費者態度指数(一般世帯、原数値)	41.1	42.7	43.7	43.6		44.1	43.5	43.7	43.7	43.6	44.6
トヨタ国内生産台数(季節調整済、万台)	26.5	26.7	26.0	25.6	27.8	26.1	24.8	26.9	25.0	26.8	28.3	
住宅投資	新設住宅着工戸数(季節調整済、千戸)	109.5	106.7	108.3	109.0		111.4	108.6	108.2	110.3	108.3	
(前年比、%)	8.6	0.2	2.0	-1.6		6.0	-1.3	-5.2	1.6	-3.4		
設備投資	法人企業統計設備投資(製造業)	-0.8	-7.5	-14.6	2.4							
	(非製造業)	17.9	29.5	-15.8	-4.3							
企業立地件数	-	-	-	-	-	12	18					
公共投資	公共工事請負額	-10.2	20.7	3.5	-8.4		8.5	9.2	-7.2	-21.7	17.5	29.8
輸出入	実質輸出(季節調整済、2015年=100)	101.0	101.1	101.9	105.0		100.9	104.5	106.0	104.5	103.5	108.4
	通関輸出(金額ベース、円建て)	-6.7	3.5	7.1	12.2		5.3	10.0	16.1	10.9	11.6	13.3
	実質輸入(季節調整済、2015年=100)	95.9	96.6	95.1	96.4		94.8	96.2	97.6	95.3	93.1	102.9
	通関輸入(金額ベース、円建て)	-12.6	6.2	9.1	13.4		8.1	13.0	15.0	12.0	12.9	17.4
物価	消費者物価指数(除く生鮮)	-0.4	0.2	0.4	0.6		0.3	0.5	0.7	0.7	0.8	
	(食料及びエネルギーを除く総合)	0.0	-0.1	-0.1	0.0		0.0	-0.1	0.0	0.0	-0.1	
金融	国内銀行預金残高	3.8	3.5	3.4	3.6		3.9	3.1	3.3	4.3	3.5	
	国内銀行貸出残高	2.4	3.2	3.6	3.4		3.6	3.5	3.3	3.2	2.7	
倒産	倒産件数	26.6	0.0	3.6	4.0		-5.1	13.5	-12.1	14.0	-4.5	23.3

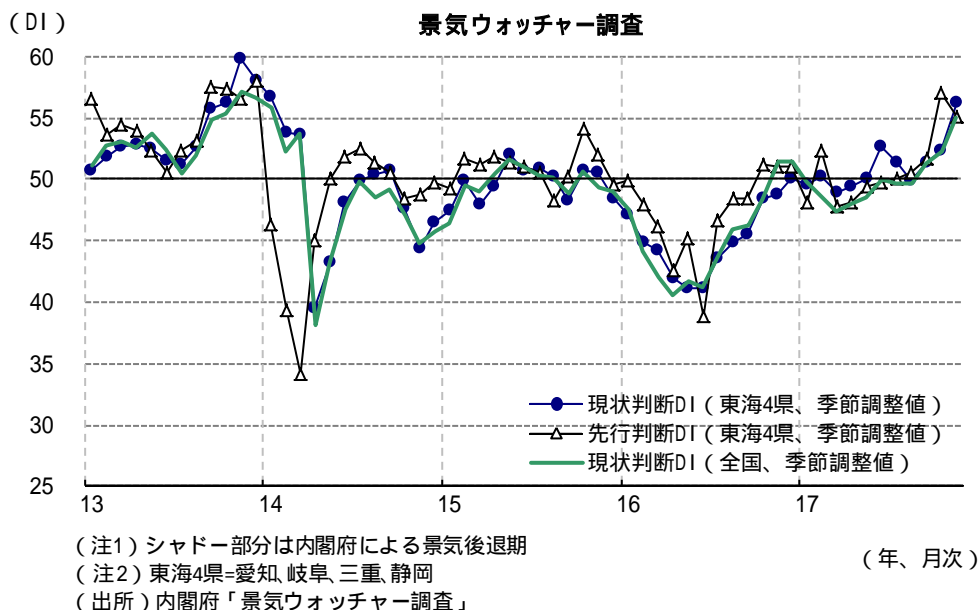
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~回復基調

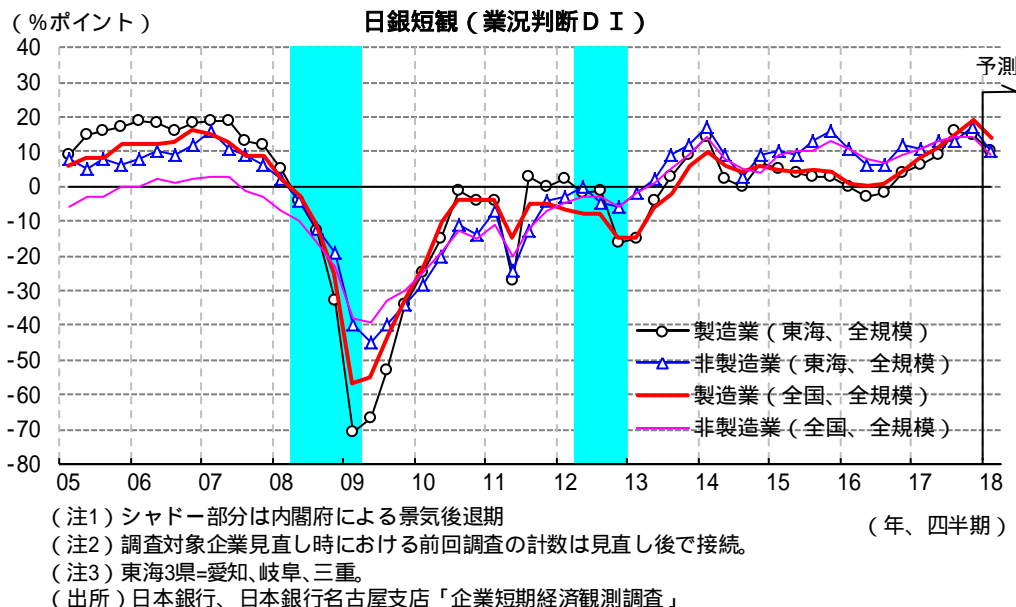
9月のMURC東海景気動向指数(CI一致指数)は、採用系列の7系列のうち生産指数(鉱工業)、人件費比率、実質輸入など4つがマイナス寄与となって前月差-2.3の147.3と4ヶ月ぶりに低下した。9月の各県の動向を見ると、岐阜県は3ヶ月連続で低下し、愛知県のCI一致指数は2ヶ月ぶりに、三重県は3ヶ月ぶりに低下した。



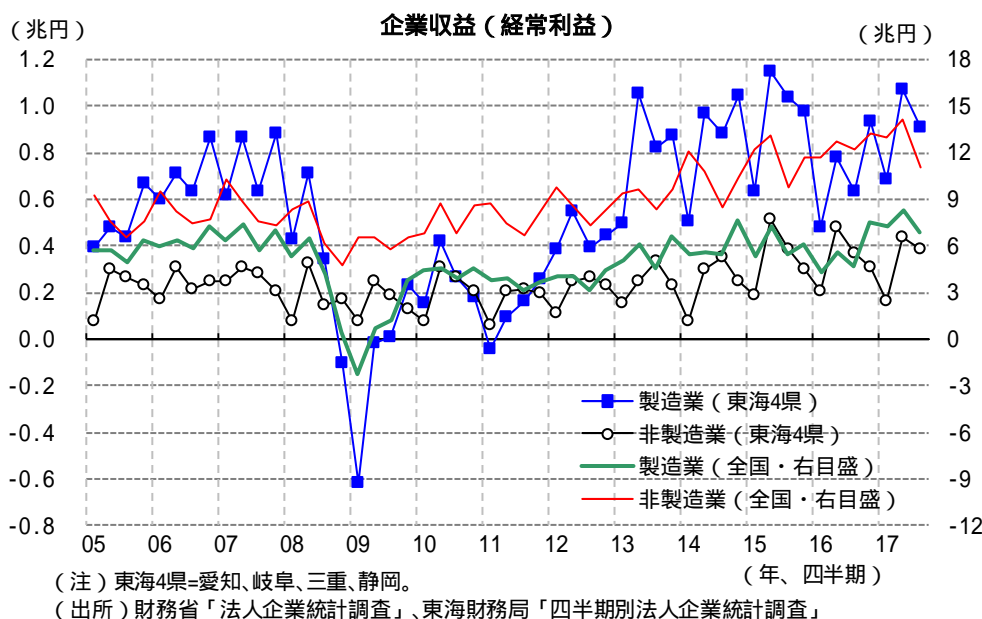
11月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断DI(季節調整値)が前月差+4.0の56.3と3ヶ月連続で上昇した。東海の景気マインドは回復している。また、先行判断DI(季節調整値)は同-2.0ポイントの55.1と8ヶ月ぶりに低下した。物価や燃料コストの上昇、人手不足などへの懸念はあるが、足下の好調さが持続するとの期待が続いている。



日銀短観12月調査によると、東海3県の業況判断D I(「良い」-「悪い」)は、全産業[全規模]で+16と前回9月調査から2ポイント上昇、製造業[全規模]では+15と、前回調査から1ポイント低下、非製造業[全規模]では+17と前回調査から4ポイント上昇した。規模別では、製造業の大企業と中小企業を除いて前回調査から改善した。先行きについては、中堅企業を除く製造業、非製造業(全規模)で悪化が見込まれている。

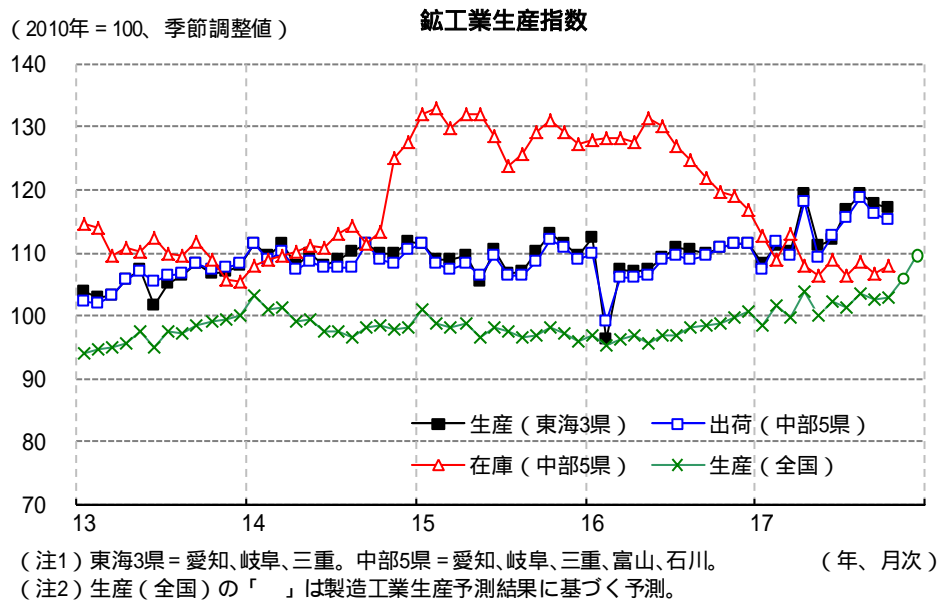


2017年7~9月期の東海4県の大企業の経常利益は前年同期比で+28.9%と三四半期連続で増加した。製造業が同+42.9%と三四半期連続で増加し、非製造業は同+4.8%と三四半期ぶりに増加した。日銀短観12月調査では、東海企業の17年度の経常利益は全産業で同+10.0%、製造業で同+15.4%と前回9月調査から上方修正され、増益を見込んでいる。一方、非製造業では同-3.4%と減益を見込んでいる。

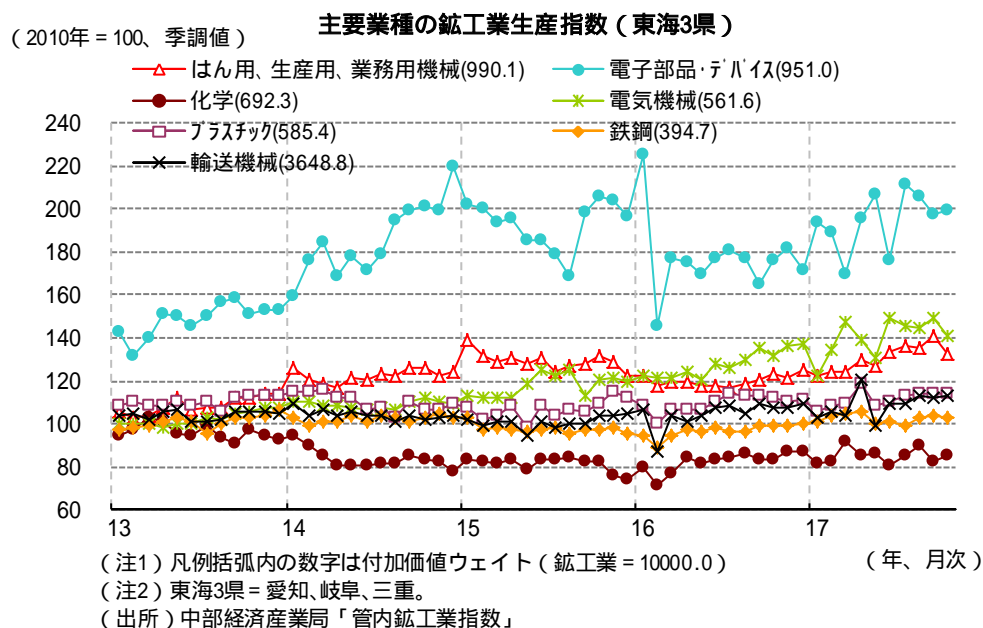


2. 生産 ~ 増加が一服

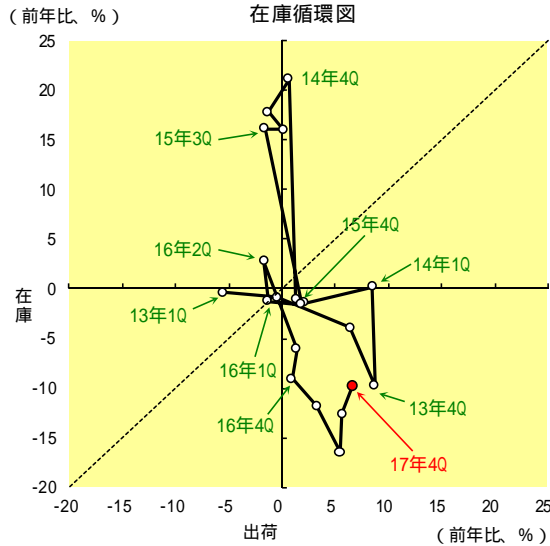
10月の東海3県の鉱工業生産は前月比 - 0.5%と2ヶ月連続で小幅減少した。輸送機械、電子部品・デバイス、化学工業などが増加したが、はん用・生産用・業務用機械、電気機械などが減少した。東海の実績はこのところ増加が一服している。先行きについては、主要業種である輸送機械の底堅い推移が見込まれる中、全体としては緩やかな増加が見込まれる。



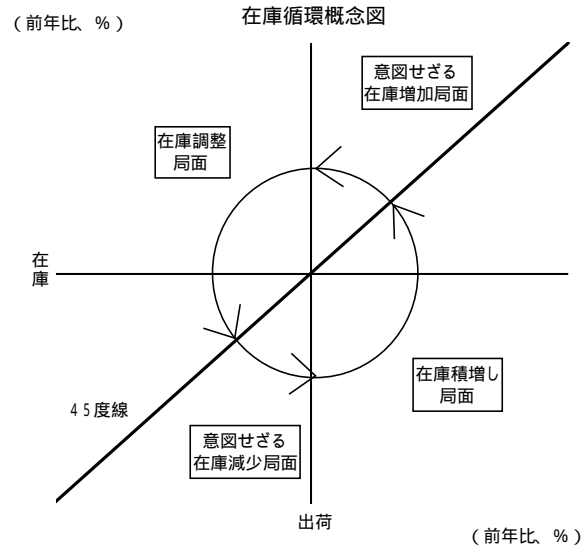
業種別では、電子部品・デバイス(前月比+1.1%)は3ヶ月ぶりに増加し、輸送機械(同+1.0%)と化学(同+2.5%)、プラスチック製品(同+0.4%)はそれぞれ2ヶ月ぶりに増加した。一方、電気機械(同-5.6%)、はん用・生産用・業務用機械(同-5.9%)はそれぞれ2ヶ月ぶりに減少し、鉄鋼業(同-0.8%)は3ヶ月ぶりに減少した。



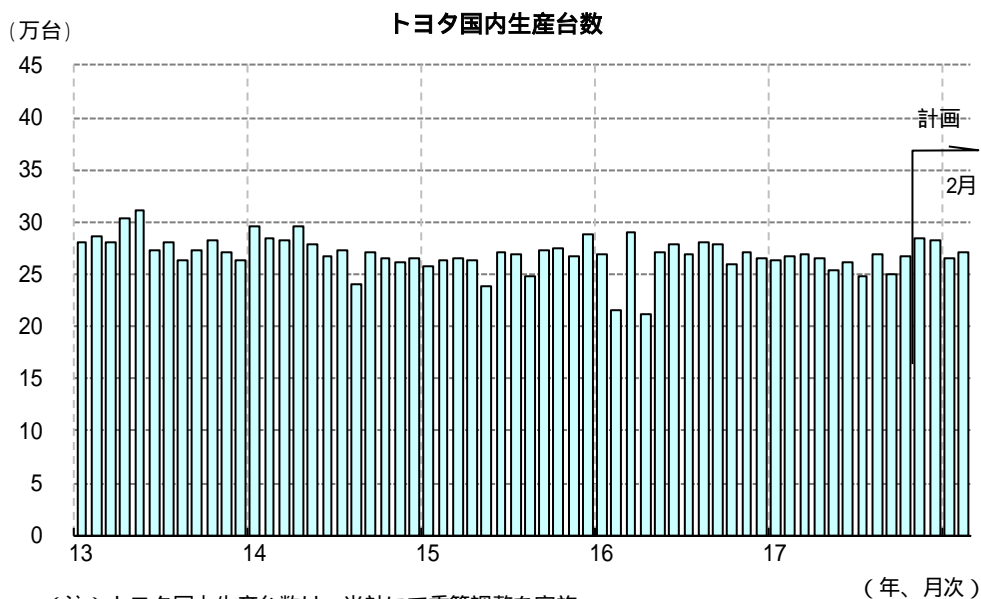
10月の中部5県の出荷は、前月比 - 0.9%と2ヶ月連続で減少した。輸送機械(同+0.4%)、電子部品・デバイス(同+0.9%)などが増加したが、電気機械(同-6.7%)、はん用・生産用・業務用機械工業(同-3.1%)などが減少した。在庫は、同+1.2%と2ヶ月ぶりに増加した。はん用・生産用・業務用機械工業(同-1.0%)などが減少したが、輸送機械(同+28.2%)、化学(同+5.0%)などが増加した。



(注1) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、富山、石川。
 (注3) 直近17年4Qの出荷、在庫は10月の前年比
 (出所) 経済産業省「鉱工業指数」中部経済産業局「管内鉱工業指数」

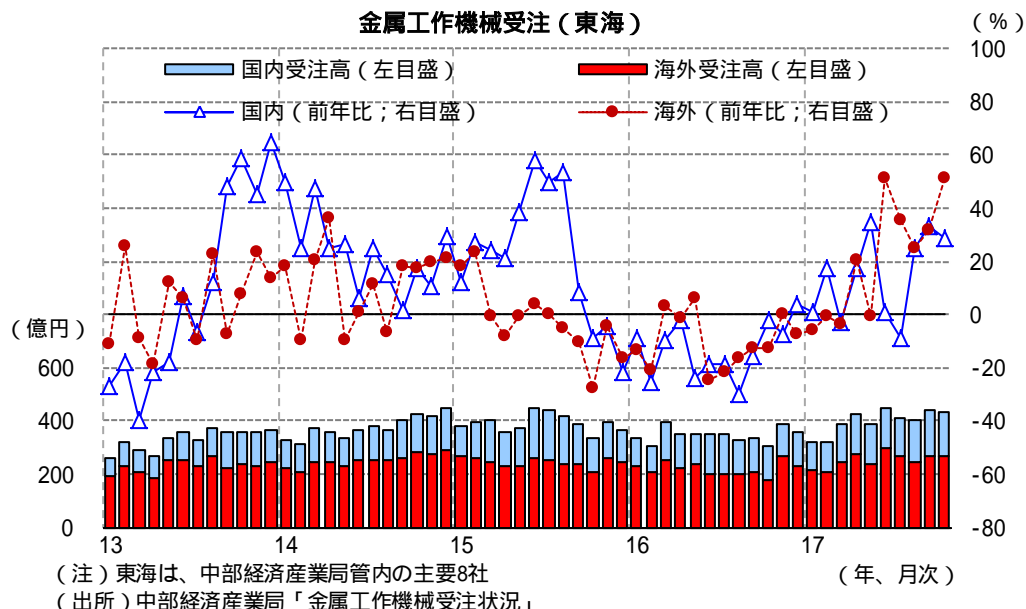


中部経済新聞社報道のトヨタ自動車国内生産計画によると、向こう3ヶ月(17年12~18年2月)の国内日当たり生産台数は1万3,000~1万4,000台で推移する見込みである。季節調整済みの数字で見ると、17年に入ってから生産は横ばい圏で推移してきたが、先行きについてはやや強含みの計画となっている。HV車が販売堅調なことに加え、SUV系を中心に輸出が堅調で国内生産の水準が高まる見込みである。



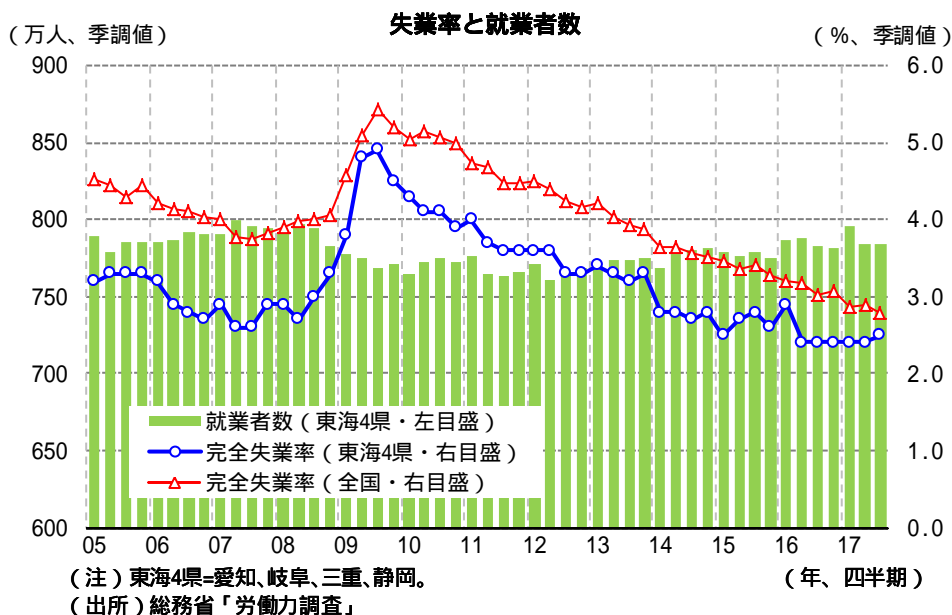
(注) トヨタ国内生産台数は、当社にて季節調整を実施。
 (出所) トヨタ自動車「生産・国内販売・輸出実績」、中部経済新聞「トヨタ生産計画」

17年10月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年比+41.8%と7ヶ月連続で増加した。国内受注(同+29.0%)は3ヶ月連続で増加し、海外受注(同+50.9%)は5ヶ月連続で増加した。地域別では、米国向けは9ヶ月連続で増加し、中国向けは10ヶ月連続、欧州向け、アジア(含む中国)向けはそれぞれ7ヶ月連続で増加した。

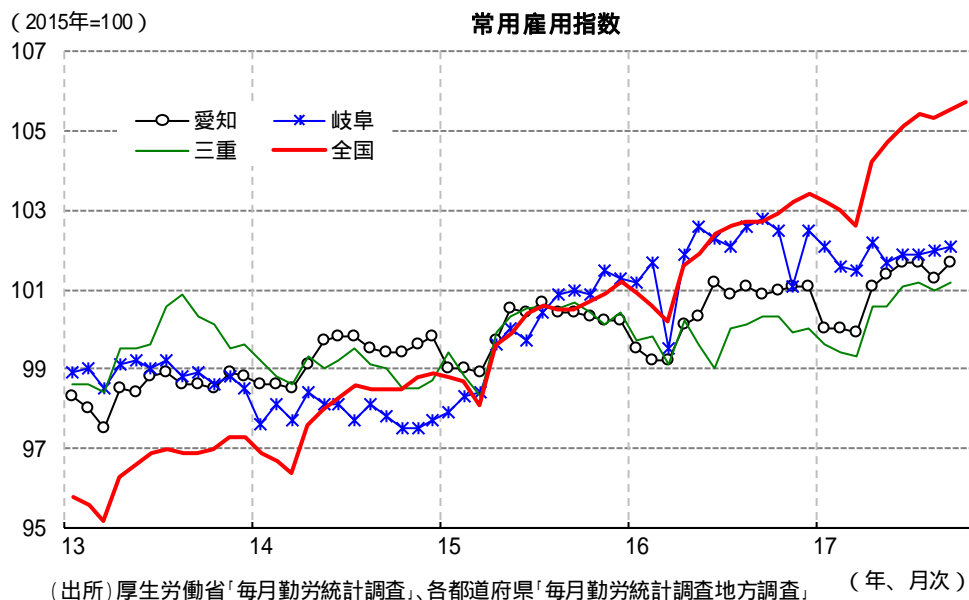


3. 雇用 ~ 持ち直しの動きが一服

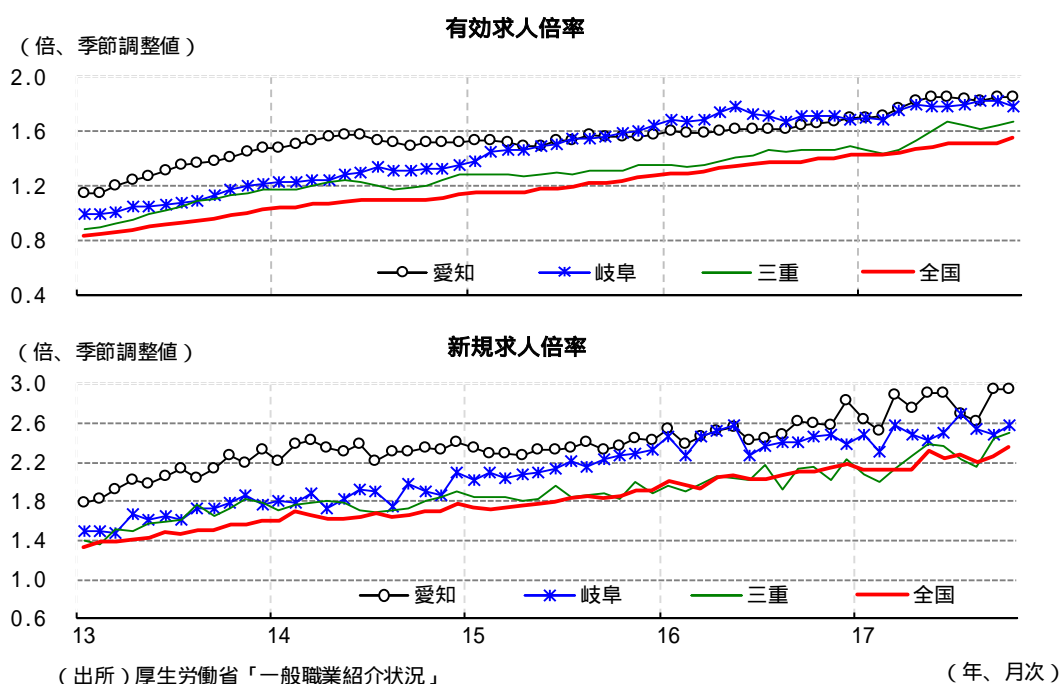
2017年7~9月期の東海4県の完全失業率は前期差+0.1%の2.5%と小幅上昇したが、全国(2.8%)に比べて低い水準で推移している。同時期の就業者数は前期と同水準となり、完全失業者は前期差1万人の増加となった。人手不足の状況が続いており、有効求人倍率は高水準で推移している。一方、東海3県の常用雇用指数は、全国に比べて弱い動きとなっている。



9月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県が前年比+0.8%と16ヶ月連続で上昇し、三重県(同+0.9%)は7ヶ月連続で上昇した。一方、岐阜県(同-0.7%)は5ヶ月連続で低下した。東海3県の常用雇用指数は、愛知県、三重県に持ち直しの動きが見られるものの、前年比で見て3県いずれも全国(同+2.7%)に比べて弱い動きとなっている。

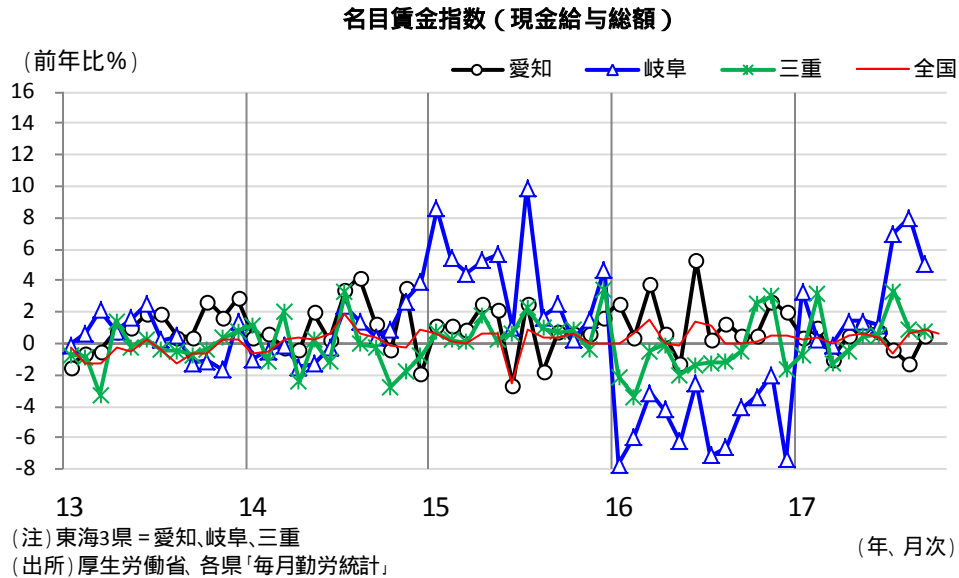


10月の東海3県の有効求人倍率(季節調整値)は、岐阜県(1.79倍)は4ヶ月ぶりの低下となったが、愛知県(1.86倍)、三重県(1.68倍)はともに2ヶ月連続で上昇した。また、有効求人倍率に先行する新規求人倍率(同)は、愛知県(2.94倍)は2ヶ月ぶりに低下したが、岐阜県(2.58倍)は3ヶ月ぶりに上昇し、三重県(2.51倍)は2ヶ月連続で上昇した。

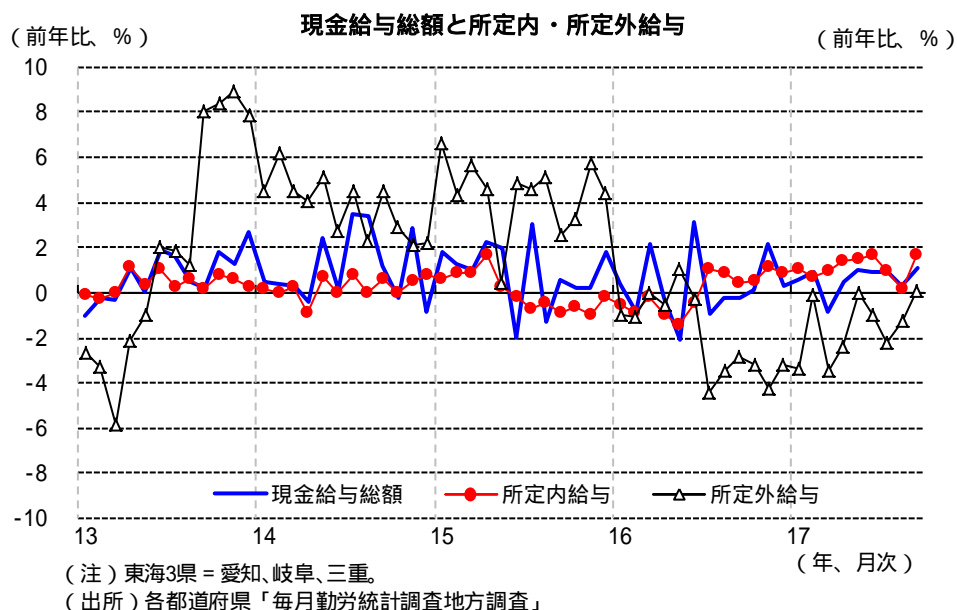


4. 賃金 ~ 緩やかに持ち直している

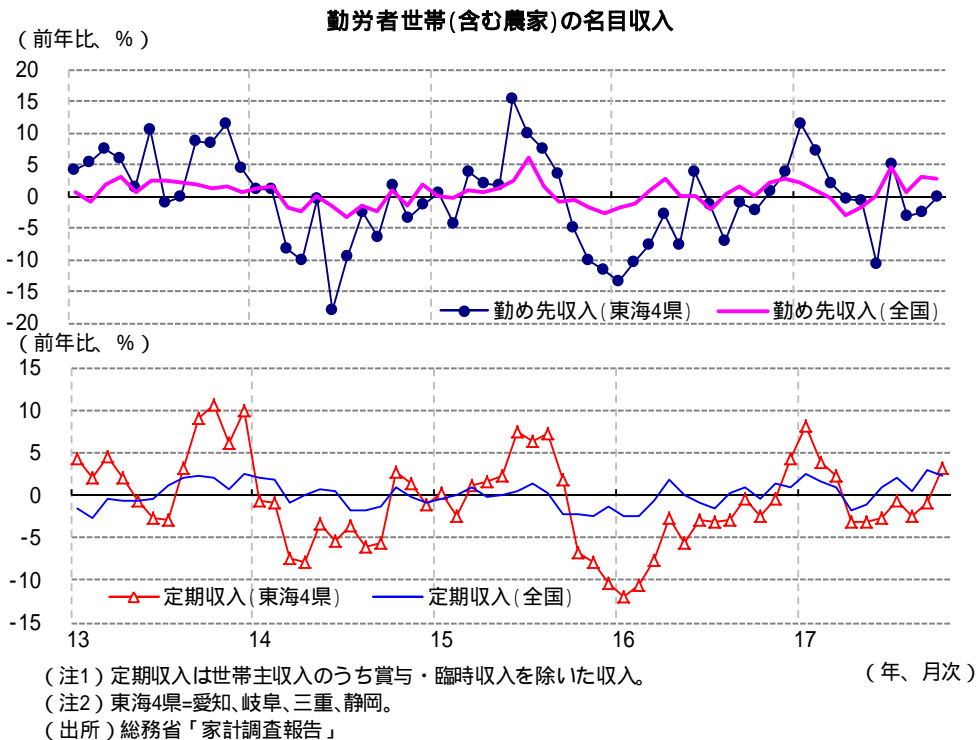
東海3県の9月の名目賃金指数(現金給与総額)をみると、愛知県は前年比+0.5%と3ヶ月ぶりに上昇し、岐阜県は同+5.1%と6ヶ月連続、三重県は同+0.7%と5ヶ月連続で上昇した。東海3県の賃金は所定内給与の増加が続くなど緩やかに持ち直している。今後についても、持ち直しが続くと思込まれる。



東海3県の9月の一人当たり現金給与総額(加重平均)は、前年比+1.1%と6ヶ月連続で増加した。内訳をみると、所定内給与は同+1.6%と15ヶ月連続で増加し、所定外給与は同+0.1%と16ヶ月ぶりに増加した。

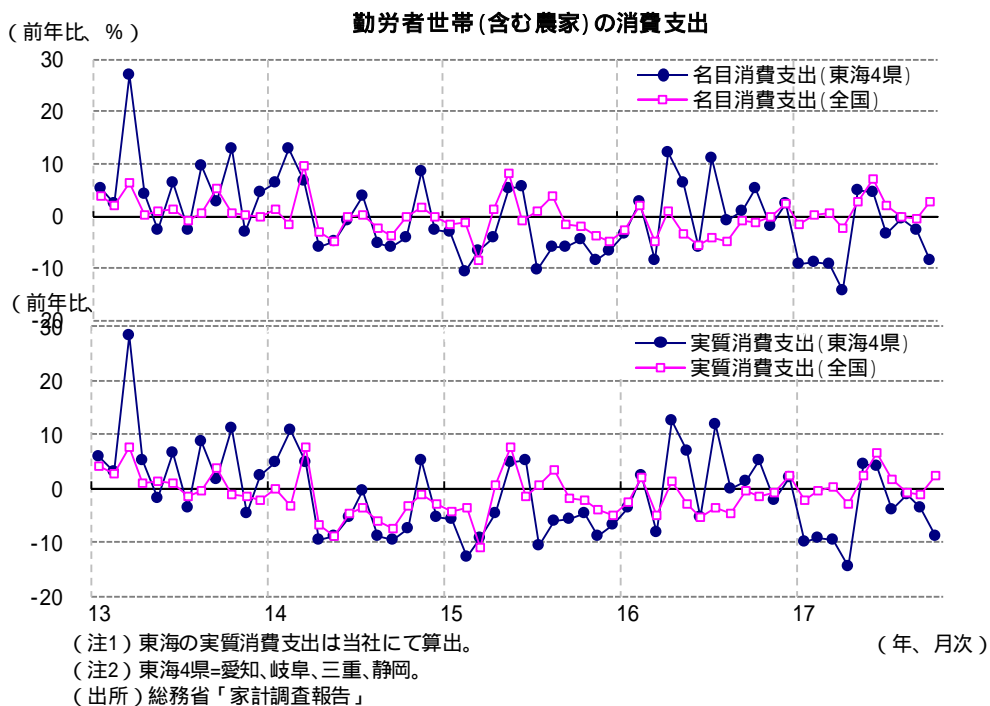


家計調査によると、10月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の賞与を含む勤め先収入は前年比 - 0.1%と3ヶ月連続で小幅減少した。一方、定期収入（世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入）は同 + 3.1%と7ヶ月ぶりに増加した。

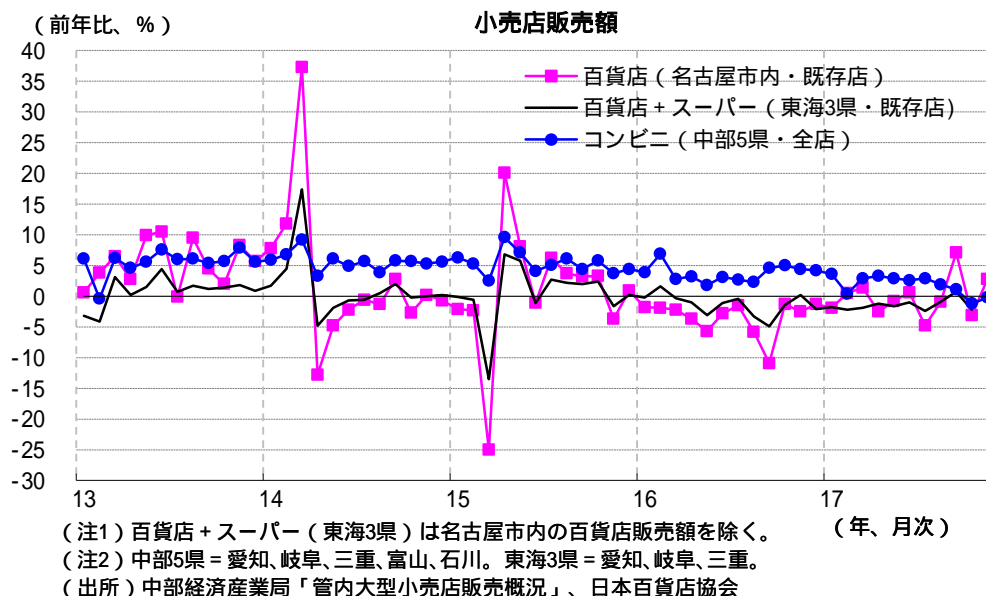


5. 個人消費 ~ 横ばい圏で推移している

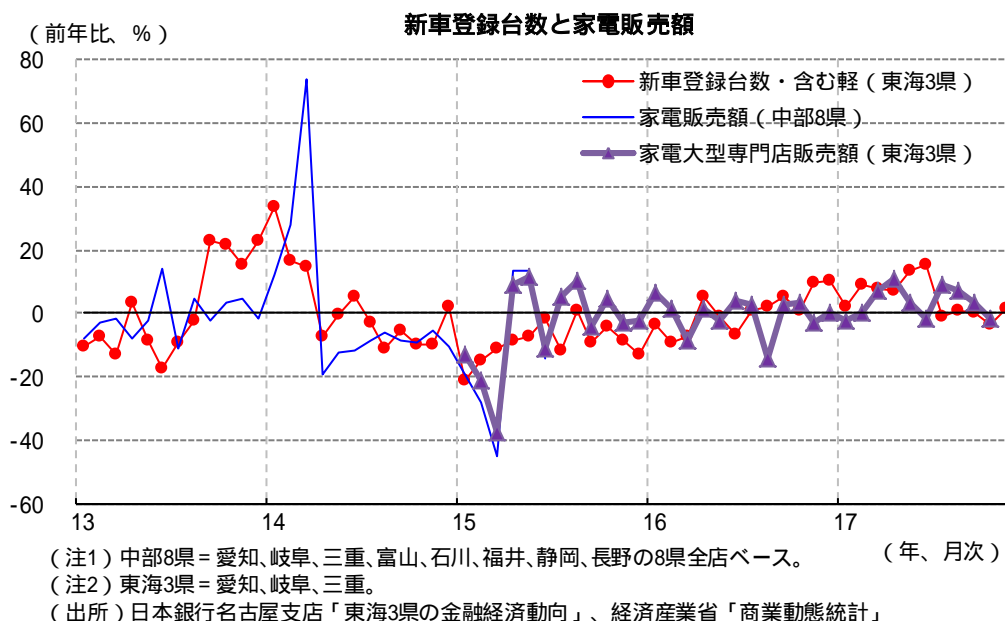
10月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の消費支出は、名目で前年比 - 8.5%、実質で同 - 8.7%と、いずれも4ヶ月連続で減少した。他の消費関連の指標も合わせてみると、東海の個人消費は横ばい圏で推移している。今後の個人消費は、所得環境が緩やかに持ち直す中で、持ち直しの動きが出てくると見込まれる。



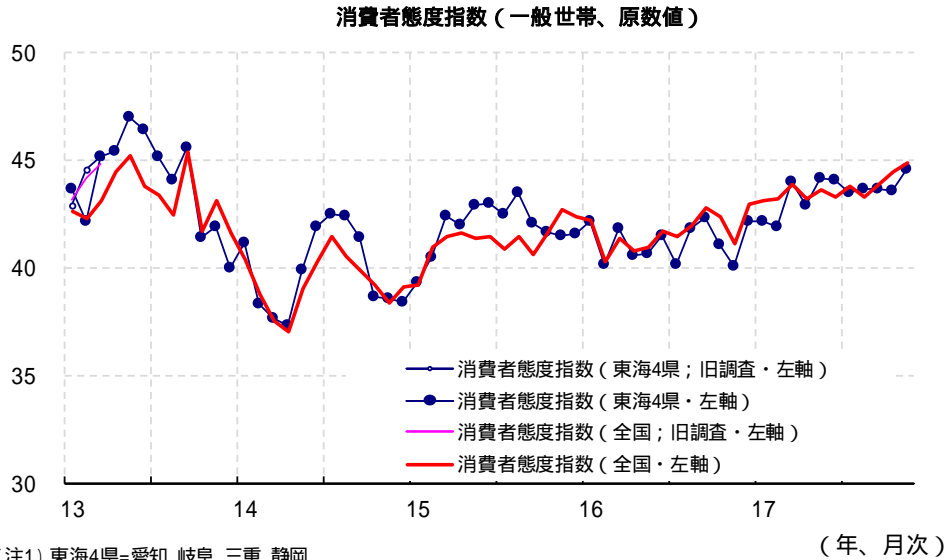
10月の東海3県の大型小売店（百貨店＋スーパー、既存店）の販売額は、台風の影響もあり前年比 - 2.2%と2ヶ月ぶりに減少した。また、10月の中部5県のコンビニ販売額（全店）は、同 - 1.2%と56ヶ月ぶりに減少した。一方、11月の名古屋市内の百貨店販売額は、同 + 2.8%と増加した。気温低下により冬物衣料や季節商材などの売れ行きが好調だったほかインバウンド消費も好調で、11月の売上増につながった。



11月の東海3県の新車登録台数（乗用車、含む軽）は、前年比 + 1.4%と2ヶ月ぶりに増加した。内訳を見ると小型乗用車は前年比 - 5.7%と5ヶ月連続で減少したが、普通乗用車は同 + 6.7%と5ヶ月ぶりに増加し、軽自動車販売が同 + 3.0%と8ヶ月連続で増加した。一方、10月の東海3県の家電大型専門店販売額は、同 - 1.3%と4ヶ月ぶりに減少した。



消費者マインドを表す消費者態度指数(東海、一般世帯、原数値)は、11月は前月差+1.0ポイントの44.6となり、持ち直しの動きがみられる。今後については、景気が緩やかに持ち直す中、消費者マインドも緩やかに持ち直してくると見込まれる。



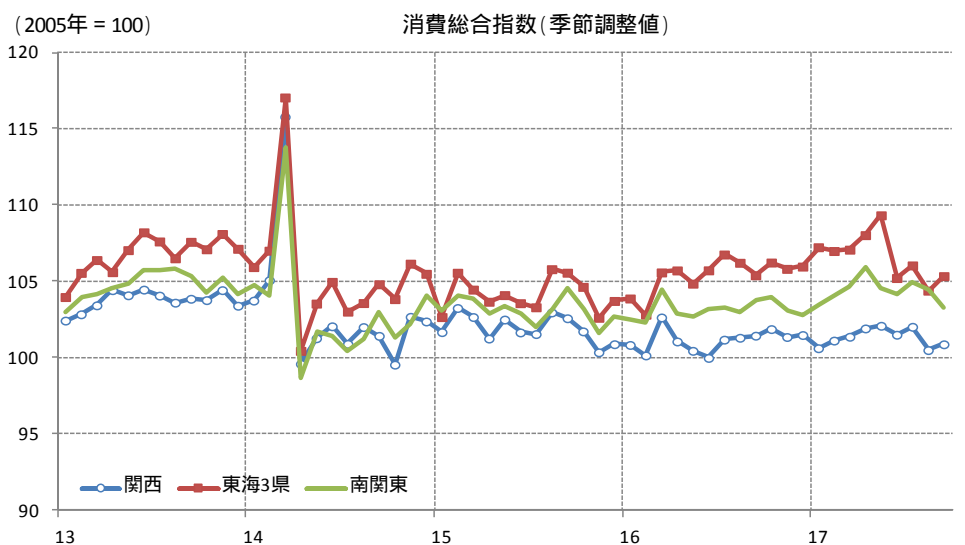
(注1) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。

(注2) 消費者態度指数は一般世帯、東海4県は原数値、全国は季節調整値。

2013年4月調査より調査方法等を変更したため、それ以前の訪問留置調査の数値と不連続が生じている。
郵送調査の2012年7月～2013年3月は試験調査による参考値。

(出所) 内閣府「消費動向調査」

内閣府が11月に公表した地域別消費総合指数によると、東海3県のサービス消費を含む個人消費は、2014年4月の消費税率引き上げ後、水準を下げて横ばい圏で推移してきた。16年3月以降は水準を幾分上げて、持ち直しの動きが見られたが、6月は交通・通信を中心に5月の上昇の反動もあって急低下、その後、ほぼ横ばいとなっている。

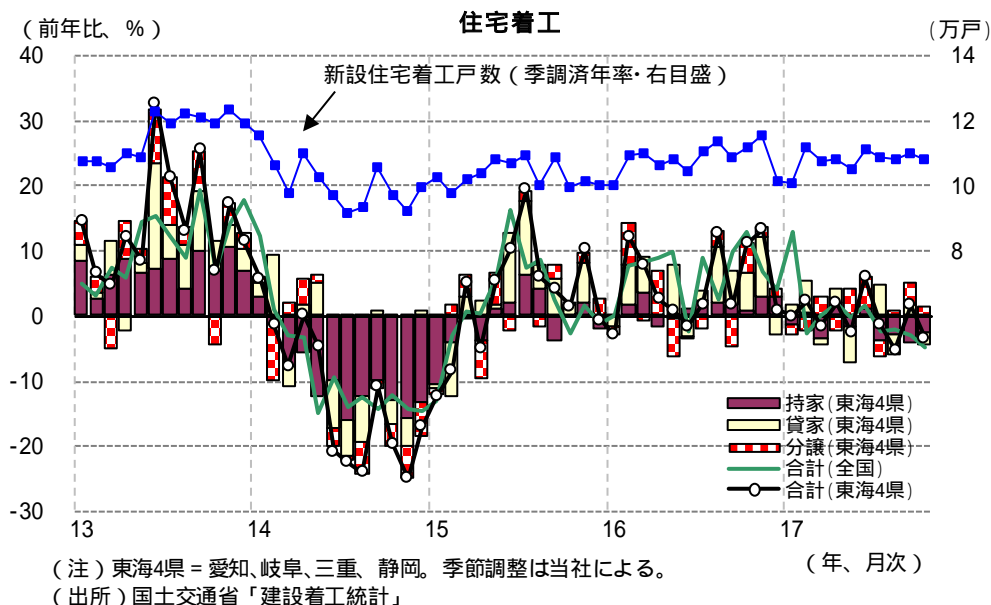


(注) 東海3県は、岐阜、愛知、三重の加重平均値

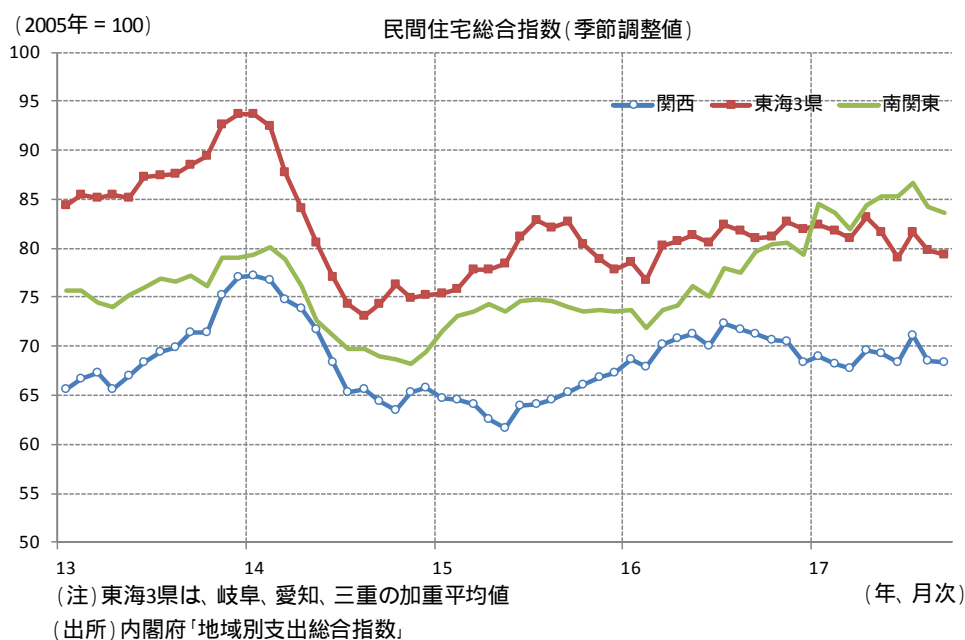
(出所) 内閣府「地域別支出総合指数」、「消費総合指数」

6. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移している

17年10月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は、前月比で-1.8%と2ヶ月ぶりに減少したが、均してみると横ばい圏で推移している。前年比で見ると、-3.4%(9,450戸)と2ヶ月ぶりに減少した。利用関係別の寄与度は、分譲は3ヶ月連続のプラスとなったが、持家は4ヶ月連続でマイナスとなり、貸家は2ヶ月ぶりのマイナスとなった。先行きについては、弱含みでの推移が見込まれる。

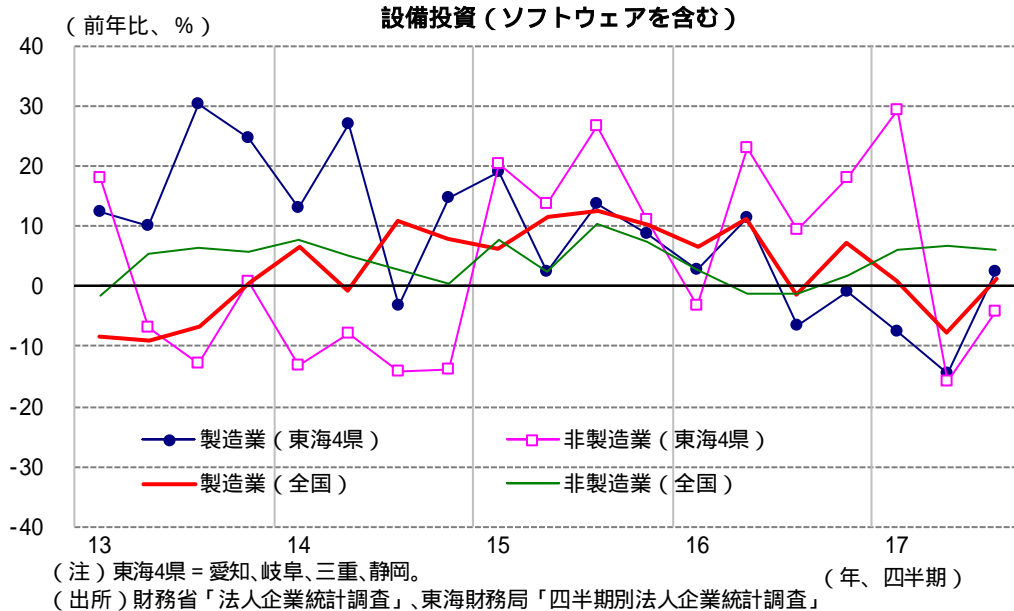


内閣府が11月に公表した地域別民間住宅総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の工事進捗ベースでの住宅投資の動向は、2015年8月をピークに弱い動きとなった後、16年に入って持ち直しの動きが続いていたが、17年中頃から持ち直しが一服し、足下で弱含んできている。

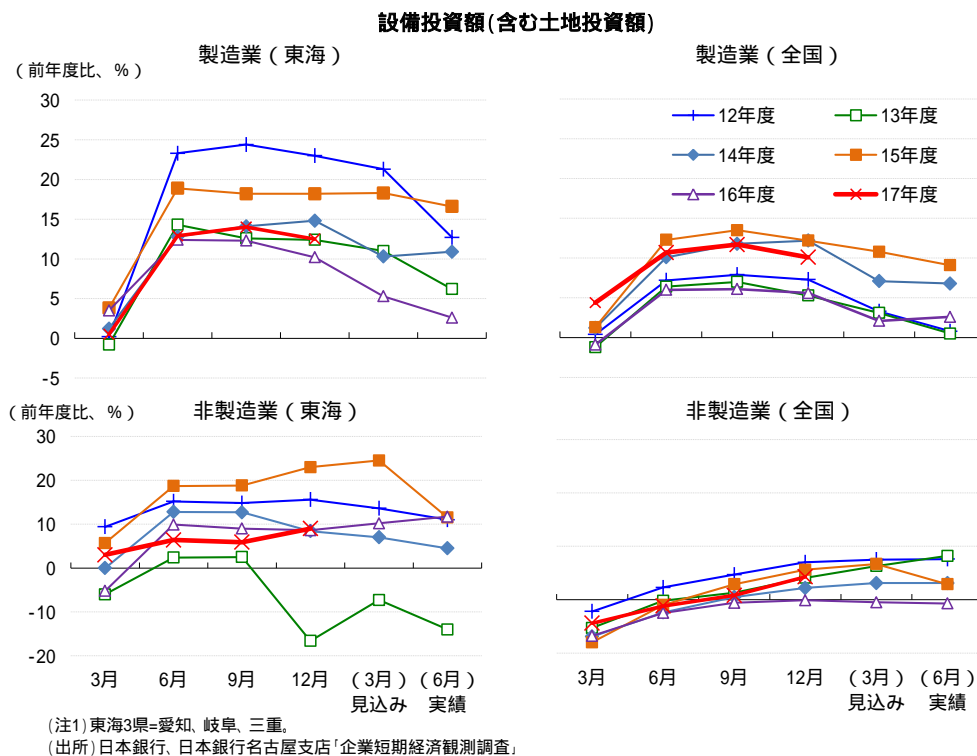


7. 設備投資 ~ 増加が一服

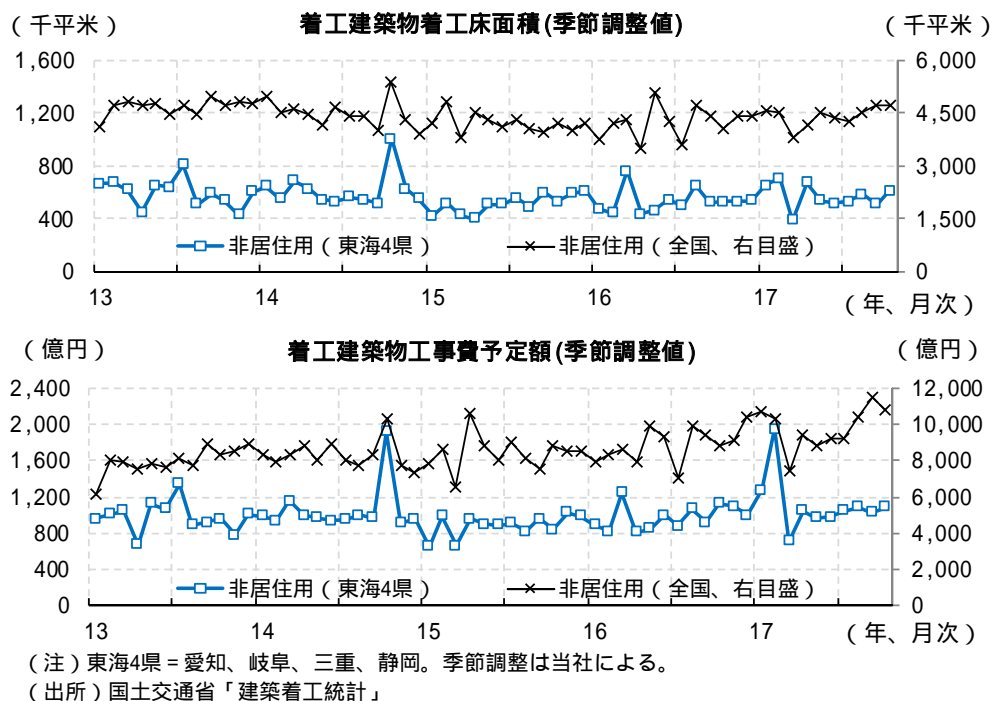
2017年7~9月期の東海4県の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比 - 0.7%と2四半期連続で減少した。製造業は同 + 2.4%と5四半期ぶりに増加したが、非製造業は同 - 4.3%と2四半期連続で減少した。非製造業においては、前年度の高水準の反動でマイナスとなっているものと見られる。



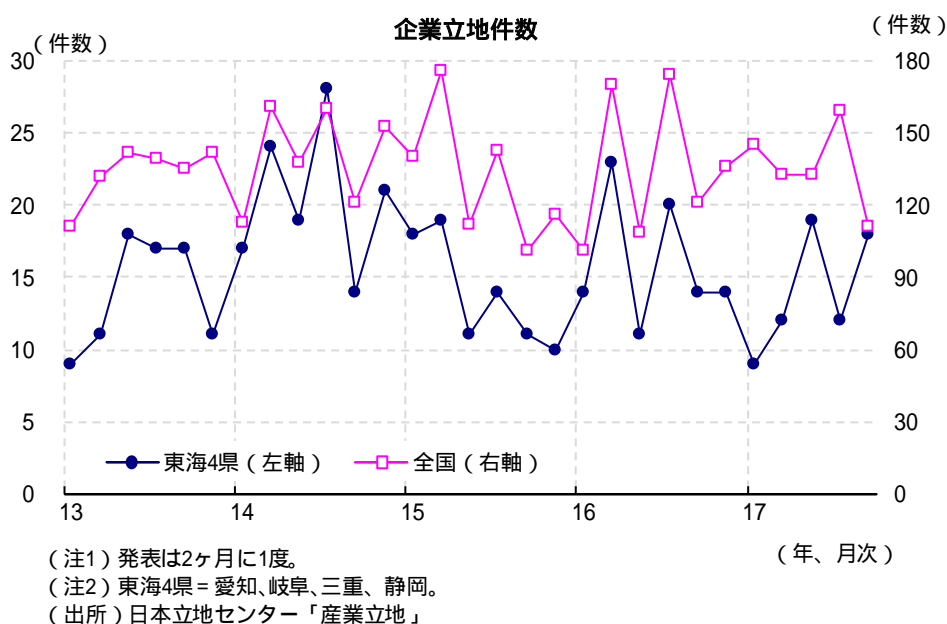
日銀短観12月調査によると、東海3県の17年度の設備投資は、全産業で前年比 + 10.8%、製造業で同 + 12.5%、非製造業で同 + 9.0%となり、引き続き全国を上回るペースでの増加を見込んでいる。前回9月調査時の17年度計画に比べると、製造業は下方修正となったが、非製造業では上方修正となった。



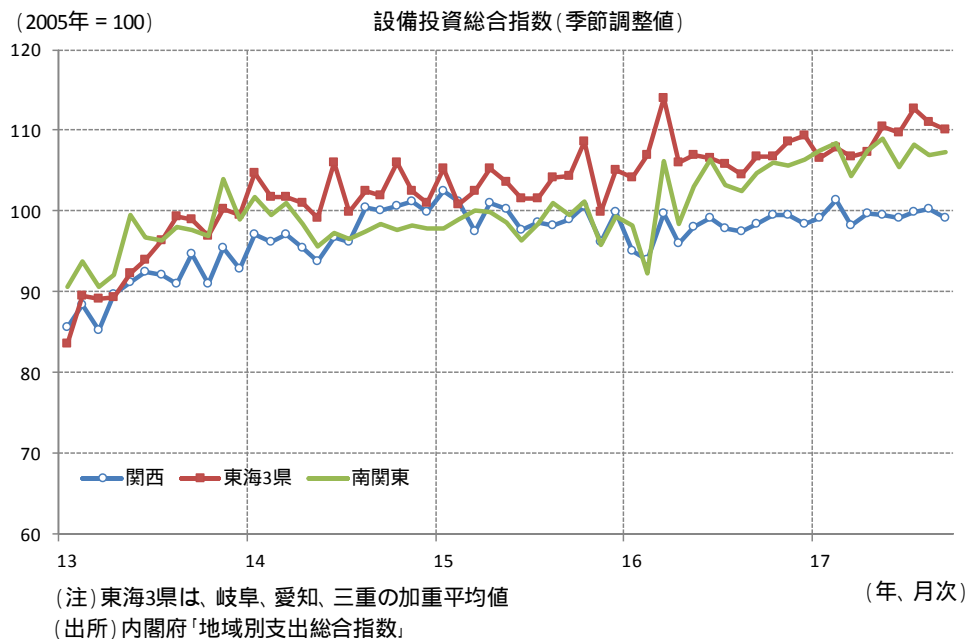
17年10月の東海4県の非住居用の着工床面積(季節調済)は、前月比+20.3%と2ヶ月ぶりに増加した。また、着工建築物の工事費予定額(季節調済)は、同+5.0%と2ヶ月ぶりに増加した。東海4県の非住居用建築着工は、均してみると横ばい圏で推移している。



2017年8・9月の東海4県の企業立地件数は18件と、前期(2017年6・7月; 12件)を上回り、前年同期(14件)も上回った。東海地区の企業立地は振幅しながらも概ね横ばい圏で推移している。

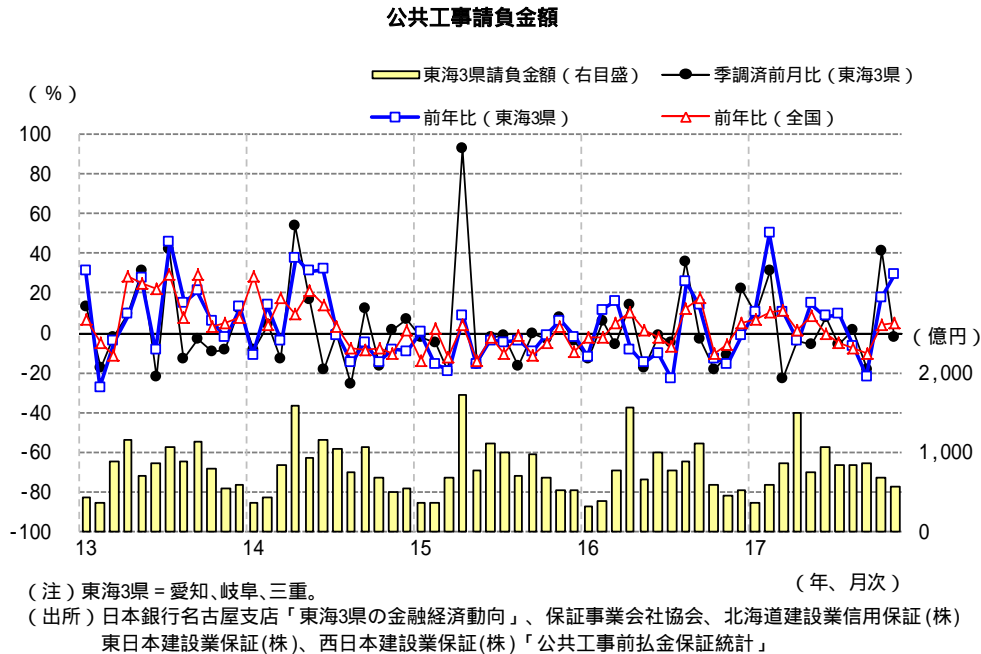


内閣府が11月に公表した地域別民間企業設備投資総合指数によると、東海3県（岐阜、愛知、三重）の民間企業設備投資は、2016年半ば以降、総じて増加基調で推移してきたが、足下で増加が一服している。

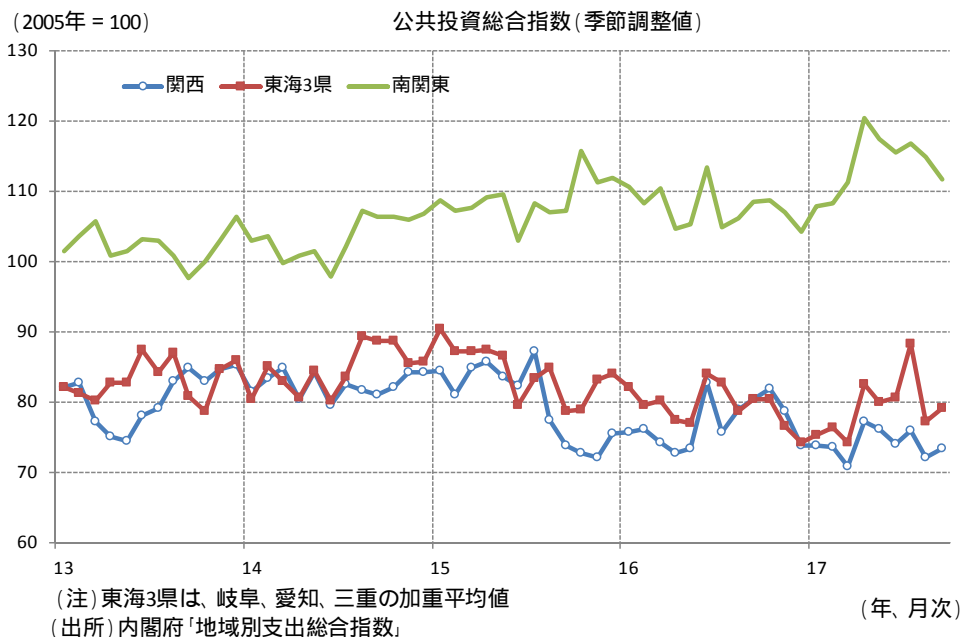


8. 公共投資 ~ 横ばい

11月の東海3県の公共工事請負額は、前年比+29.8%の575億円と2ヶ月連続で前年を上回った。発注者別では、国は同+15.6%と2ヶ月連続で増加し、地方は同+31.6%と2ヶ月連続で増加した。年度累計では同+1.6%と3ヶ月ぶりに増加に転じた。一方、日銀名古屋支店公表の季調済み前月比は-2.2%と2ヶ月ぶりに減少した。先行きについては、横ばい圏での推移が見込まれる。

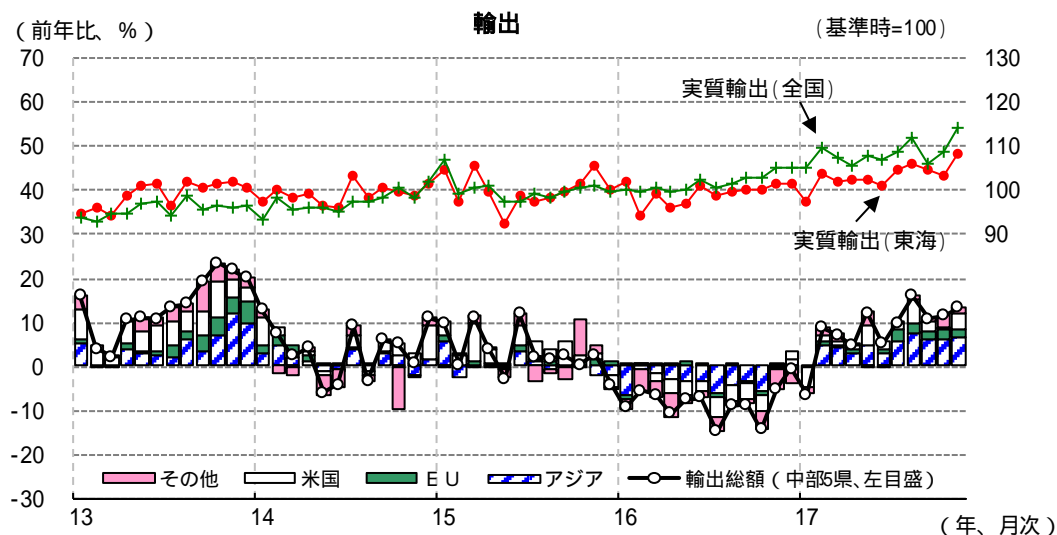


内閣府が11月に公表した地域別公共投資総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の工事進捗ベースでの公共投資は、2015年以降、均して見ると減少傾向で推移してきたが、2017年度に入って下げ止まっている。



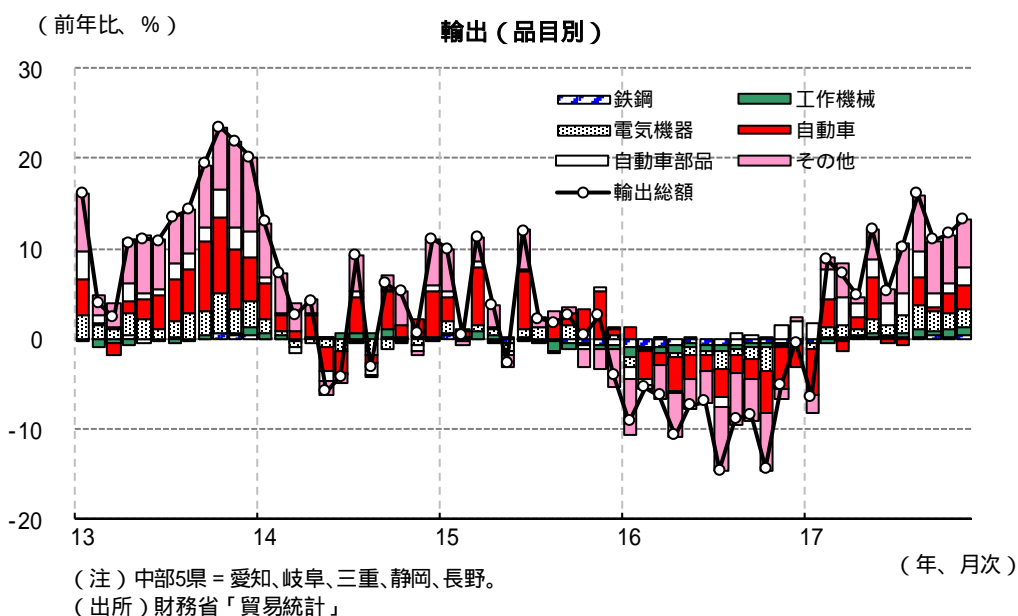
9. 輸出入 ~ 輸出は持ち直し、輸入は持ち直しの動き

東海の輸出は持ち直している。11月の実質輸出(季調済)は前月比+4.8%と3ヶ月ぶりに増加した。また、11月の名古屋税関管内の輸出額は前年比+13.3%と10ヶ月連続で増加した。米国向けは同+12.6%、中国向けは同+13.7%、アジア向け(含む中国)は同+17.3%、EU向けは同+14.4%と増加した。先行きについては、世界経済が緩やかに回復する中、緩やかな持ち直しが見込まれる。



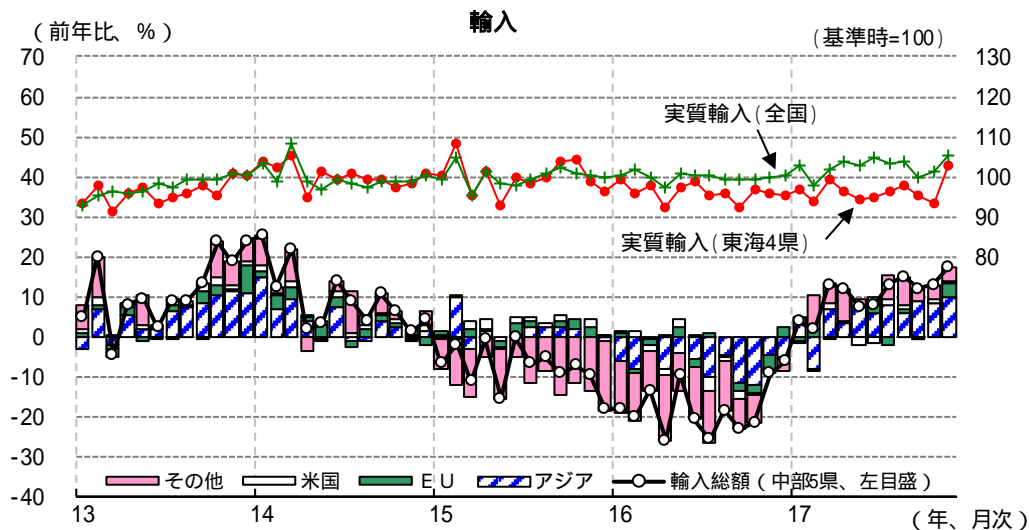
(注1) 実質輸出は全国、東海4県ともに2015年基準。
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

11月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、自動車(前年比+8.6%)は4ヶ月連続で増加し、自動車部品(同+14.2%)は16ヶ月連続、鉄鋼(同+37.6%)と電気機器(同+13.6%)は10ヶ月連続、工作機械(同+47.1%)は8ヶ月連続で増加した。



(注) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」

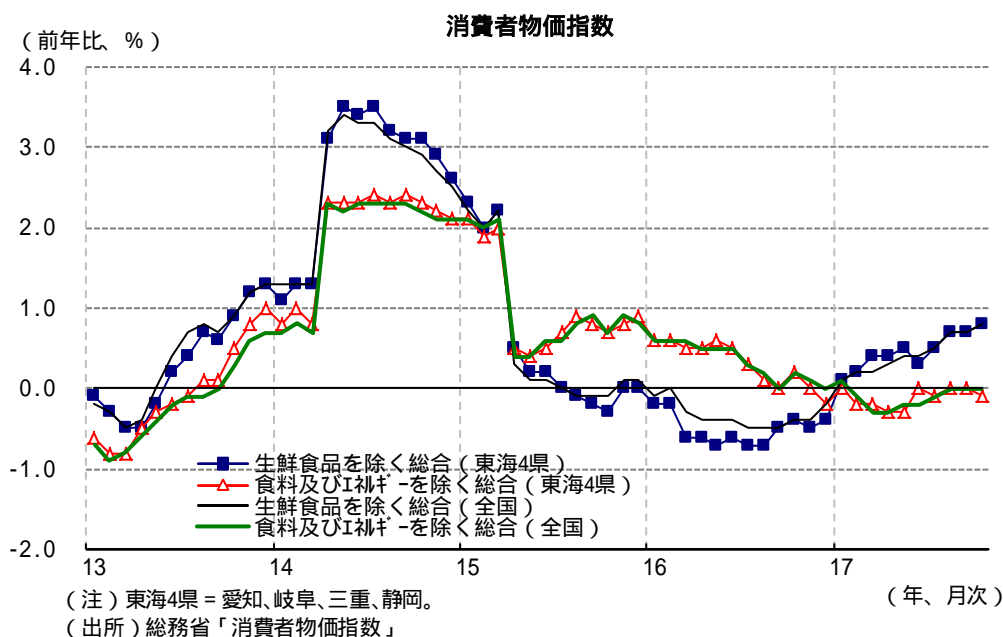
東海の輸入は持ち直しの動きが見られる。11月の実質輸入(季調済)は、前月比+10.5%と3ヶ月ぶりに増加した。また、11月の名古屋税関管内の輸入額は前年比+17.3%と11ヶ月連続で増加した。品目別には、液化天然ガスなどが減少したが、自動車、原油及び粗油などが増加した。地域別には、アジア(含む中国)、EUなどが増加した。今後は、国内の需要動向を反映して、実質輸入は持ち直してくると見込まれる。



(注1) 実質輸入は全国、東海4県ともに2015年基準。
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

10. 物価 ~ 緩やかに上昇

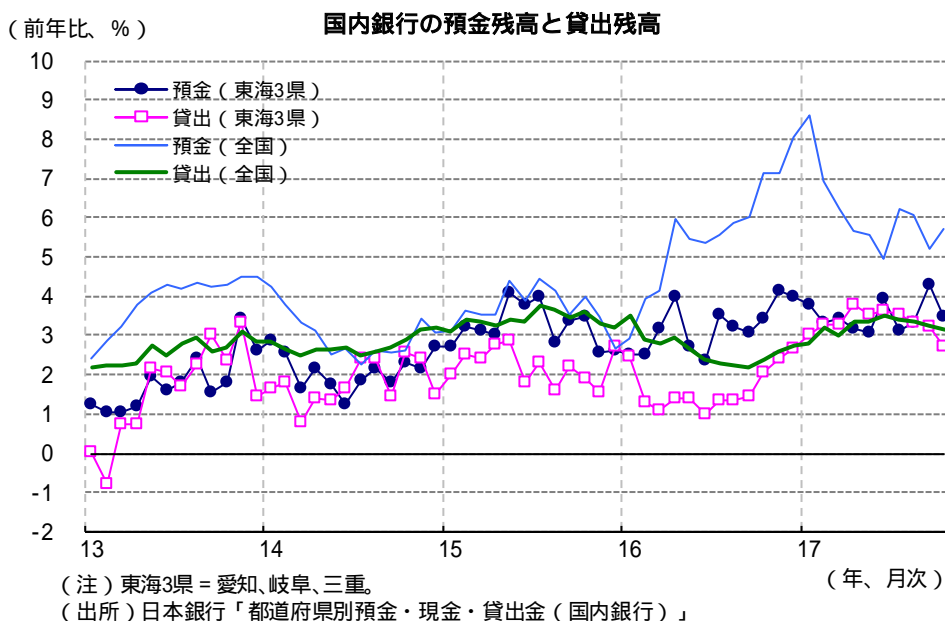
10月の東海4県の消費者物価は、生鮮食品を除く総合で前年比+0.8%と10ヶ月連続で上昇した。食料品価格は13年7月以来の低下となったが、エネルギー価格は上昇している。食料・エネルギーを除く総合は同-0.1%と3ヶ月ぶりに減少した。今後については、エネルギー価格の上昇が一巡してくることから、プラス幅の拡大に歯止めがかかってくる見込みである。



(注) 東海4県 = 愛知、岐阜、三重、静岡。
 (出所) 総務省「消費者物価指数」

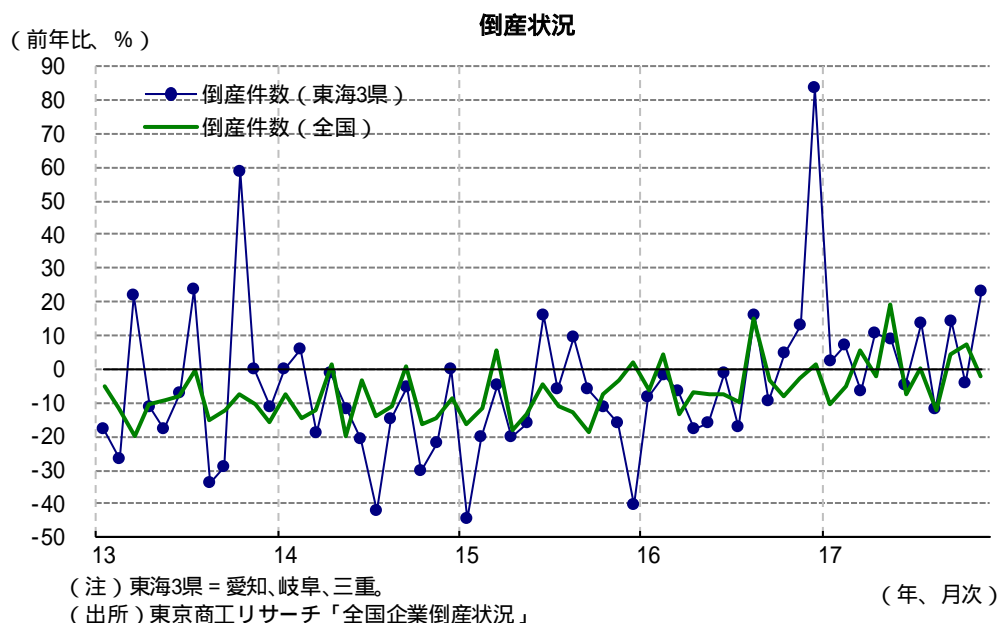
11. 金融 ~ 預金、貸出ともに増加

17年10月の東海3県の預金残高(国内銀行ベース)は、前年比+3.5%と増加が続いている。個人預金、法人預金ともに増加している。貸出残高(国内銀行ベース)は、資金需要が持ち直している中、同+2.7%と56ヶ月連続で増加した。貸出残高は今後も緩やかな増加が続くと見込まれる。



12. 倒産 ~ 倒産件数、負債総額ともに増加

11月の東海3県の倒産件数は前年比+23.3%の74件(前年同月60件)と2ヶ月ぶりに増加した。県別では、愛知県は49件(同49件)と前年と同水準となったが、三重県は11件(同5件)と4ヶ月連続で増加し、岐阜県は14件(同6件)と2ヶ月ぶりに増加した。また、11月の東海3県の負債総額は同+50.7%の132億円と2ヶ月ぶりに前年を上回った。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗		↗	全国	↗		↗	
	東海	↗		↗	輸出	東海	↗		↗
	関西	↗		↗	関西	↗		↗	
個人消費	全国	↗		↗	輸入	全国	→		↗
	東海	→		→	輸入	東海	→		→
	関西	↗		↗	関西	→		→	
住宅投資	全国	↘		↘	生産	全国	↗		↗
	東海	→		→	生産	東海	→		↗
	関西	→		→	関西	↘		↗	
設備投資	全国	↗		↗	雇用	全国	↗		→
	東海	→		↗	雇用	東海	→		→
	関西	↗		↗	関西	↗		→	
公共投資	全国	↘		→	賃金	全国	→		→
	東海	→		→	賃金	東海	→		→
	関西	↘		↘	関西	→		→	



: 晴れ



: 薄日



: 曇り



: 小雨



: 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す
 2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す
 3. 全国は12月4日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。
 4. 関西については、東海のレポート公表時の暫定であり、関西のレポート公表時に見直す場合がある

【各項目のヘッドライン】

項目		11月のコメント	12月のコメント
1. 景気全般	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	回復している	回復基調
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
2. 生産	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	増加基調が続いている	増加が一服
	関西	持ち直しが一服	持ち直しが一服
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しの動きが一服	持ち直しの動きが一服
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
5. 個人消費	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しの動きが見られる	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
6. 住宅投資	全国	横ばい圏で推移している	緩やかに減少している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
7. 設備投資	全国	緩やかに増加している	緩やかに増加している
	東海	大企業に弱さが見られるものの、緩やかに増加	増加が一服
	関西	製造業を中心に持ち直している	製造業を中心に持ち直している
8. 公共投資	全国	増加している	補正予算による押し上げ効果は一巡
	東海	横ばい	横ばい
	関西	減少基調	減少基調
9. 輸出入	全国	輸出は持ち直している 輸入に持ち直しが一服している	輸出は持ち直している 輸入に持ち直しが一服している
	東海	輸出は持ち直しの動き、 輸入は横ばい	輸出は持ち直し、 輸入は持ち直しの動き
	関西	輸出は持ち直し、輸入は横ばい	輸出は増加、輸入は横ばい
10. 物価	全国	企業物価は上昇、 消費者物価は緩やかに上昇	企業物価は上昇、 消費者物価は緩やかに上昇
	東海	緩やかに上昇	緩やかに上昇
	関西	緩やかに上昇	緩やかに上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに 緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに 緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数、負債総額ともに増加
	関西	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数は増加、負債総額は減少

(注) 1. シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

2. 関西については、東海のレポート公表時の暫定であり、関西のレポート公表時に見直す場合がある

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

(注)

現況を問わず天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国(グラフで見る景気予報)と関西地区(グラフで見る関西経済)の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。